

弘前市協働によるまちづくり推進審議会 会議録概要 (第5回)			
日 時	令和元年11月20日(水曜日) 18時00分～19時00分		
場 所	弘前市役所市民防災館3階防災会議室	傍聴者	1人
出席者 (17人)	委員 (12人)	佐藤会長、生島会長職務代理者、下山委員、小山委員、大西委員、鴻野委員、安田委員、大塚委員、斎藤委員、宇野委員、青山委員、柴委員	
	執行 機関 (5人)	市民協働課	高谷課長、竹内課長補佐、中村係長、小山主事、菊地主事
会議概要			
1 開会			
2 議事 「答申案の検討・承認」			
【各委員の意見等】			
<p>会 長：それでは議事に入ります。前回の審議会で皆様からご指摘いただいた内容を踏まえ、最終案をご用意いたしました。今回は、三つの問題についてご議論いただき、最終決定したいと思います。一つは改善に向けた提案について、次に市の取り組みで新しく付け加えたアンケート結果の集計概要、そして取り組みの評価と条例の見直しについて、この三点について検討してまいりたいと思います。まずは改善に向けた提案のところについて、改めていろいろとご意見を伺ってまいりたいと思います。</p> <p>委 員：審議会からの周知方法の工夫のところ、本審議会の雰囲気伝えるという文言があるのですが、雰囲気を伝える必要があるのかなと思いました。「和やかに」とか「厳しく」とかそういったことを伝えるのではなく、議事録などで、どのような流れで審議会が行われているかを知ってもらうということだと思うので、雰囲気という言葉は要らないと思います。</p> <p>会 長：いかがでしょうか。ご意見がないようですので、ここでは審議会の答申作成までの議論の過程を伝えるということで、雰囲気という文言を削除します。その他いかがでしょうか。それでは次に、市職員の接遇に関する取り組みへの提案についてはいかがでしょうか。特にないようでしたら、</p>			

「市民に寄り添い、市民目線で～」のところ、「市職員の『協働によるまちづくり』に対する意識醸成～」のところはいかがでしょうか。

委員：表現の問題ですが、協働によるまちづくりを学ぶ機会の創出のところ、「まちづくりを学ぶではなく」、「まちづくりについて学ぶ」という表現のほうがいいと思います。

会長：それでは、そのように訂正します。その他いかがでしょうか。

委員：同じ箇所で「学ぶ機会」と「考える機会」という2種類の表現があるのですが、あえてここは言い分けているのでしょうか。

事務局：事例の紹介など、協働によるまちづくりについて少しでも考えて欲しいという提案と、研修の受講など、より深く学んで欲しいという2種類の提案があることから表現を分けています。

委員：わかりました。それと前回の審議会で話題になった、職員意識アンケートの集計結果概要のところですが、このアンケート結果について、回答率が低かったことや、職員のまちづくりに対する意識について我々は大きな衝撃を受けたという事実があると思いますので、もう少しそのあたりをわかるようにしたほうがいいのかと思います。

委員：それに付け加えると、数字の表記について、パーセントや何割、約半数というふうにいると混在しています。数字は凄く大事なことになるので統一するほうがわかりやすいのかなと思います。

会長：全職員のうちの何パーセントなのか、回答者のうちの何パーセントなのか誤解してしまう人もいますしね。もう少しわかりやすくする必要があるということですね。

委員：この部分は、市の担当から説明を受けた内容を載せるところなので、我々が説明を受けて感じたことを書き込むのは避けたほうがいいと思います。説明を受けたうえで、我々が何を感じて議論をしたかは別の議事録

などで示すことだと思えます。この部分に我々が受けた印象を載せるのは説明内容とズレが生じる可能性があると思えます。

委員：文書に全て数字を盛り込むのは難しいので、円グラフなどで回答率がどうであったかなどを示せばいいと思えます。グラフで数字もわかるようにしておいて、それを見た人が我々と同じような印象を受けてくれればいいのかなど。ここにたくさんの文字や細かい数字を入れると文書が長すぎて見てもらえなくなるのではないかなと思えます。

委員：ここに我々の評価を入れるかどうかということですが、実際事務局から説明を受けた時も、市民協働課ではどのような評価をしているかということがあったと思うので、それについては書いたほうがいいと思えます。

委員：シンプルに書いたほうが説得力が出るのかなと思えます。あくまでも集計結果の概要という見出しなので、低かったなどの表現は不要かなと思えます。

委員：やはりここでは客観的な事実をそのまま伝えればいいだけで、我々の評価は必要ないと思えます。むしろ文書で書くとわかりづらくなると思うので、我々が説明を受けた時のグラフをそのまま載せるだけでいいと思えます。

会長：グラフだけということでしょうか。

委員：グラフを見ればアンケートの結果がわかるので、文書は要らないと思えます。文書の表現次第で読み手の印象が変わるのは避けたほうが良いと思えます。

委員：さすがにグラフだけでは説明不足かなと思えます。ここに我々の評価は入れないとしても、形式として文書は必要だと思えます。今回、わざわざこのように、アンケートの集計結果概要を入れることとなった理由は、我々がこれまで議論してきた中で、このデータのインパクトが非常に大きかったからだと思えます。だからこそ、この部分については、多少量

が多くなったとしても文書も入れたほうが良いと思います。

会 長：まず、表現はパーセントに統一ということですね。そして、文書に合わせたグラフを入れることで、よりわかりやすくすることにしませう。その他、いかがでしょうか。

委 員：改善に向けた提案の冒頭のところで、市職員の「協働によるまちづくり」に対する意識醸成のための取り組みと書いてあるのですが、意識醸成が目的ではないと思います。大事なのはそれを理解して実際に行動を起こすことだと思います。なので、意識醸成のためではなく、「協働によるまちづくりに対する理解を深め実践するための取り組み」といったふうに明確に記載したほうが良いと思います。目的は理解を深めて実践することなのだ。

事務局：今、委員がおっしゃっていただいた部分の表現ですが、ここは今回の諮問事項をそのまま記載する部分となっておりますので、変更することが出来ません。

委 員：だとすれば、「これまで以上に内容の充実を図るため」という部分を、「協働によるまちづくりに対する理解を深め、実践するため」といった表現にしていきたい。

会 長：いかがでしょうか。それでは今のようになりたいと思います。それでは答申の改善に向けた提案については以上でよろしいでしょうか。今後は会議がありませんので、今回出た意見を踏まえた答申案の修正は事務局と私に一任していただくこととして、皆さんには答申を出す前に修正後のものをお見せします。それでは次に、全体としての評価に移ります。こちらはいかがでしょうか。

全委員：異議なし。

会 長：それでは、最後の条例の見直しについて、今回は見直しが必要とされる箇所は特に認めらないという提案ですが、いかがでしょうか。

全委員：異議なし。

会 長：それでは、以上で全項目についてご意見をいただきました。他に何かございませんか。

委 員：確認ですが、先ほど議論になった、「協働によるまちづくりを学ぶ機会の創出」の箇所は全て「について」という表現に変更するという事によってよろしかったでしょうか。

会 長：「について」という表現で統一することにしましょう。それでは、会議を終わりたいと思います。今回出た意見を私と事務局で再整理して答申の最終案を作成したいと思います。ありがとうございました。

3 事務連絡

4 閉会